

ごとう通信

第106号

平成21年10月1日

九月は意外と過ごしやすかったですね。雨や台風も少なく、僕たちのように訪問で外に出る人間にとつては快適な季節でした。さあ、問題はここからです。お米をはじめ作物はしっかり育っているでしょうか。日照時間が少なかったという話もあって少し不安ですが、実りの秋になると思います。

先日、ある方のところへ訪問しました。一人暮らしの高齢女性です。なかなか外出することが難しく、日中はもっぱらテレビ三昧。朝から晩までテレビがつきっぱ



なしという状態でした。そのテレビはもちろん地デジ対応の薄型テレビ。実は、僕の自宅では相変わらずのブラウン管テレビ。なかなか壊れないのですでに十一年以上現役です。

さて、その女性のテレビのリモコンを見てびっくり、とにかく多くのボタンが付いており、どのボタンが何なのか理解しにくいものでした。きっと最新式の機能が組み込まれていると思うのですが、そこまで使いこなすのは決して容易なことではありません。結局その方が使っているのは電源、音量とチャンネルの3つだけ。僕もそれで十分だと思えます。現代の文化はいろんな分野で便利さが増しているのですが、「余計なもの」も増えている気がします。先日、診療室の電話機が調子悪くな

って買いに行ったところ、これまたいろんな機能を持つものが出ていました。電話のそばに近寄ると伝言メッセージを話すなどという機能まで。正直言って「余計なお世話！」電話が通じればそれで十分！

そう言えば歯ブラシなども柄が曲がっているものや毛先が球状のものなどもありましたね。何の意味があったのか：

医者の不養生

先日、久しぶりに自分自身が歯科治療を受けました。まあ、典型的な「医者の不養生」です。診断はとうにできていたのになかなか機会がなく（うそ、勇気がなく）そのまま放置していました。

さて、何が起こったのかといえ